

明和町の近代(昭和)

昭和になると太平洋戦争がはじまり、明和町でもその影響を受けました。明和町では役場の南側一帯（今の北野）が開発され、航空通信兵を養成する第七航空通信連隊の基地が作られました。この基地では約 2000 人の隊員がいました。戦争が終わると第七航空通信連隊の基地は住宅地となりましたが、道路などは当時のままであり、今でも兵舎の跡や防空壕（町指定史跡）が残されています。また平尾には戦闘機を隠すための掩体壕が残されています。



北野にあった基地（昭和 20 年、現在）
基地の区画が現在の土地区画に残されていることがわかります



陸軍第七通信連隊一二八部隊防空壕



キーワード：防空壕、第七通信隊一二八部隊、戦争遺構